

給油中の吹きこぼれに注意！

吹きこぼれとは？

セルフスタンドの計量機には、満量停止装置（オートストップ機構）が備えられています。このため、燃料タンクが満量になると、オートストップ機構が作動して給油が自動的に止まります。

しかし、少ない流量で給油した場合や給油ノズルを奥まで差し込まないで給油した場合は、オートストップ機構が作動しないことがあり、ガソリンが吹きこぼれてしまいます。

ガソリンは引火しやすいので、吹きこぼれてしまうと大変危険です。

吹きこぼれを防ぐには？

- (1) 給油ノズルを止まるところまで確実に差し込む。
- (2) 給油ノズルのレバーを止まるところまで確実に握る。
- (3) 自動的に給油が止まったら、それ以上給油はしない。
- (4) 給油後は、給油ノズルを確実に元の位置に戻す。



給油中の火災に注意！

ガソリンはとても引火しやすいので、取扱いには注意が必要です。ライターなどの火のほかに、静電気や衝撃の火花によっても引火します。給油中の火災を起こさないために、以下の注意点をお守りください。

また、もしも給油口から炎が吹き出た場合には、給油ノズルをそのままにして従業員を呼びましょう。給油ノズルを引き抜くと、こぼれたガソリンに引火して大変危険です！

車のエンジンをかけたまま給油しない

エンジンをかけたまま給油することは法律で禁止されています。また、ガソリンの蒸気に引火する危険性が高まります。

給油前に静電気除去シートに触れる

体にたまっている静電気を取り除いてから自動車の給油キャップを開けてください。静電気を取り除かないと、静電気火花が発生してガソリンの蒸気に引火します。

特に冬季は静電気がたまりやすいので注意が必要です。

給油中にライター、タバコなどに火を着けない

ライターなどの火がガソリンの蒸気に引火します。



ガソリンや軽油の買いだめについて

ガソリンや軽油の買いだめは極力控えてください。ガソリンや軽油は「危険物」です。ガソリンは容易に気化し、小さな火源でも爆発的に燃焼します。軽油は、大量に保管すると火災の危険性が高まり、一旦火災が発生すると大火災になる可能性があります。

セルフスタンドでは、利用客が自らガソリンを容器に入れることはできません。

特に灯油用ポリ容器（20リットル）にガソリンを入れることは非常に危険ですので絶対に行わないでください。